

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																			
岡山理科大学専門学校	昭和50年4月14日	奥田 宏健	〒700-0003 岡山県岡山市北区半田町8-3 (電話) 086-228-0383																																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																			
学校法人加計学園	昭和36年9月20日	理事長 加計 晃太郎	〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 (電話) 086-252-3161																																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																		
文化・教養	文化・教養 専門課程	動物看護学科 3年制コース	平成22年文部科学省 告示第249号	-																																		
学科の目的	動物看護学科2年制課程では修得できなかった看護技術を習得する。高度な動物看護技術、経済動物、環境動物、ペット栄養管理士、介護職員初任者研修資格等、人と動物との関係を習得する。																																					
認定年月日	平成27年2月17日																																					
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																																
2	172単位	106単位	28単位	38単位	0単位	0単位																																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																	
90人	21人	0人	9人	13人	22人																																	
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績は100点を満点とし、60点以上を合格とする。評価は100～80点を優、79～70点を良、69～60点を可とし、59～0点を不可とする。																																	
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月20日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月9日 ■学年末:3月31日		卒業・進級 条件		本校に2年以上在学し本校が定めた授業科目を履修し、定められた単位数を修得した者に対して校長は総長と協議の上、卒業と認定する。 また学科に定める規定単位数を修得した者に対して進級と認める。																																	
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者への協力、カウンセリング指導		課外活動		■課外活動の種類 ホームルーム、校友会、クラブ活動 ■サークル活動: 有																																	
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 動物病院 ■就職指導内容 就職、進学などの進路支援活動を組織的に行っている。キャリア教育、職業理解研修、求人票の見方、履歴書の書き方指導、面接試験対策、労働法、内定後の手続き等について、就職課を中心にクラス担任と協力して取り組んでいる。 ■卒業者数 6 人 ■就職希望者数 5 人 ■就職者数 5 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 83 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士1級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>サービス接遇検定3級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>サービス接遇検定2級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>介護職員初任者研修</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>認定動物看護師資格</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>ペット栄養管理士</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士2級	③	6人	6人	愛玩動物飼養管理士1級	③	6人	6人	サービス接遇検定3級	③	3人	3人	サービス接遇検定2級	③	6人	6人	介護職員初任者研修	③	3人	3人	認定動物看護師資格	③	6人	6人	ペット栄養管理士	③	5人	4人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																			
愛玩動物飼養管理士2級	③	6人	6人																																			
愛玩動物飼養管理士1級	③	6人	6人																																			
サービス接遇検定3級	③	3人	3人																																			
サービス接遇検定2級	③	6人	6人																																			
介護職員初任者研修	③	3人	3人																																			
認定動物看護師資格	③	6人	6人																																			
ペット栄養管理士	③	5人	4人																																			
中途退学 の現状	■中途退学者 2 名 ■中退率 8.7 % 平成29年4月1日時点において、在学者23名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者21名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 家庭の経済的都合、学生生活不適應 ■中退防止・中退者支援のための取組 保護者を交えた三者面談、チューター制によるカウンセリング、専門のカウンセラーの常駐																																					
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) ※有の場合、制度内容を記入 特待生選抜入試による授業料・入学金減免制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																					
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																					
当該学科の ホームページ URL	https://www.risen.ac.jp/																																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職した就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

国家試験受験資格要件を満たす必須科目の他、最新の知識・技術の修得に応じる科目について、業界と学術の双方からの要人を編集委員に迎え入れて、カリキュラムの構成に配慮している。また、専門職業人としてかつ、関係業務従事にも対応できる人材の養成を目指し、業界・企業の要望を真摯に取り入れるべく、業界の第一線で活躍し、専門に造詣深い講師を招聘することに努めている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校務分掌の中の各種委員会に当該委員会を明記し、教育課程編成に当たっての重要な策定組織と位置付けている。当委員会の役割は、現教育課程の忠実な履行を調査・審査することと、国家・社会、業界の要請に鑑みて次年度の編成に向けての協議・検討を行うものである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年11月30日現在

名前	所属	任期	種別
松本 道博	パーム動物病院	平成29年4月1日～平成30年3月31日	③
赤木 佐千子	岡山大学自然生命科学研究支援センター技術員	平成29年4月1日～平成30年3月31日	②
奥田 宏健	岡山理科大学専門学校 校長		
湯浅 康生	岡山理科大学専門学校 教務課長		
津村 誠一	岡山理科大学専門学校 動物系部長		
小崎 直一	岡山理科大学専門学校 動物看護学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

現カリキュラムを基にした時間割と担当教員、授業の工夫状況の審査を4月に、次年度のカリキュラム編成の検討を9月に実施する。年間2回の開催としている。ただし、年度内に必要とあれば臨時の開催も妨げない。

(開催日時(実績))

第1回 平成29年6月2日 13:00～14:00

第2回 平成29年11月30日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回目では、学科改善の為、28年度から29年度にカリキュラムを変更したことを委員に報告。また29年度学外連携行事計画、28年度就職状況について、就職先が決まらず就職に消極的になっていく学生に対しての対応策等を協議した。結果、出来るだけ早くインターンシップ実習や職場体験を行い、動物看護職への理解を深め、就職に向けたモチベーションを維持させることが必要であり、学生の就職斡旋に取り組む。第2回目では、委員より「更に地に着いた実習が、就職に結びつきやすいのでは」との意見もあり、来年度のカリキュラムにて内容を更により改善していくこととした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

山口大学共同獣医学部附属動物医療センター、岡山市、岡山県動物愛護センター、岡山県自然保護センター、蒜山ホースパーク、池田動物園とは産業動物やエキゾチックアニマルなどの演習等や動物愛護フェスティバルのボランティア研修を実施。さらに動物看護職の実践として、県内外の動物病院の協力のもと、インターンシップを必須科目、介護職員初任者研修資格演習を選択科目としている。

加えて、高度医療実施動物病院にて、CT、MRI等の高度医療を集中的に学習している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 池田動物園とは学園と包括連携協定を締結している。岡山県畜産研究所など団体・公的機関とは本校教員前職絡みで、所属長と実習協定を結んでいる。
 県内外の動物関連検査施設や動物病院とはインターンシップ協定を結ぶ。岡山県獣医師会の賛助会員。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物園実習	飼育動物の給餌や運動、ケージの掃除・消毒等の世話を通して、飼育・健康管理のポイントや動物の扱い方について学ぶ。	(株)池田動物園
動物看護学実習Ⅰ	動物の看護を実践して学び、動物看護学で学んだ知識の理解を深める	ジュンペットクリニック
動物外科総合演習	外科学および外科技術の基本的理論を身に着け、看護の実践に役立つ技術とトレーニングを重ねた動物看護師を養成する。	田村動物病院
インターンシップ・多目的実習Ⅰ、Ⅱ	動物病院や、動物関連施設の実情と仕組みを学び、それぞれの必要とされている技術・思考法を習得し、幅広い視野を養う。	山口大学共同獣医学部附属動物医療センター、蒜山ホースパーク、県内外の動物病院
獣医看護演習Ⅱ	CT、MRI等、先端医療器材の使用方法和、各種臨床検査等の技術を学び、専門職看護技術職を目指すため、パラメディカル技術を集中的に学習する。獣医系大学や、先端医療技術動物病院等で集中的に技術取得に努める。	倉敷動物医療センター アイビー動物クリニック
卒業研究	動物関連学科の動物看護学、基礎獣医学、動物愛護関連教科をより深く理解し、動物関連業務を主体的に取り組むためにグループ研究をし、成果を発表するとともに論文にまとめる。	岡山県動物愛護センター、岡山県自然保護センター、(株)池田動物園
介護職員初任者研修資格演習	動物看護師の職域拡大に資する為、人の動物介在医療が試行されている。それらを実践している社会福祉施設では、初任者研修資格等の公的資格が必要となる為、対応していく。	有限会社「あさひ」 ヘルパーステーション

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 獣医学会、獣医療学術研究大会などへ職員の派遣を奨励している。また、動物看護師公的資格化に向けて各種協議会等への役員を派遣している。
 動物医療に関して獣医師会との協力・連携に努めている。
 さらに、岡山県知事より動物愛護管理法に基づく動物愛護推進協議会委員の委嘱を受け、(公財)岡山県動物愛護財団評議員を歴任し、公益活動を積極的に進めている。

(2) 研修等の実績

- ① 専攻分野における実務に関する研修等
- 研修名「獣医師会学会」(連携企業等:岡山県産業動物獣医会、中国地区産業動物獣医会)
 期間:例年8月・9月 対象:獣医師会会員
 内容:岡山県産業動物獣医会、中国地区産業動物獣医会の発表演題の審査
- 研修名「ホームヘルパー初任者研修」(連携企業等:ヘルパーステーションの看護師、社会福祉士)
 期間:夏期 対象:動物看護学科学生
 内容:学内施設及び医療福祉施設で研修研修、実習により資格取得
- 研修名「学術専門書の執筆委員に委嘱」(連携企業等:インターズー)
 期間:4月1日 対象:動物看護師
 内容:動物看護実習テキスト、細胞診、レントゲン検査、超音波検査、心電図検査、担当執筆
- 研修名「動物臨床医学会評議員」(連携企業等:動物臨床医学会、大学、開業獣医師、動物看護師、関連企業)
 期間:平成29年11月20日
 内容:学会の運営、研究発表、学術誌の刊行等。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「日本獣医病理学会の功労会員」(連携企業等:開業獣医師、家畜保健所、食肉検査所)

期間:10月18日(水) 対象:看護学科生

内容:細胞診断、病理診断の事例、血液の提供と指導。染色法・検査法の指導、標本鑑別

研修名「岡山県動物愛護推進協議会委員に委嘱」(連携企業等:獣医医院開業者、獣医師会、岡山大学、岡山県保健福祉部、岡山県市長の会、日本愛玩動物協会)

期間:平成29年7月27日(木)

内容:動物愛護管理法に基づき、岡山県行政推進に関する助言、推進員委嘱

研修名「動物看護師学会へ参加」(連携企業等:動物臨床医学会)

期間:平成29年11月20日 対象:動物病院看護師、大学、専門学校の看護学科学生

内容:動物病院スタッフ発表会、動物病院スタッフセミナー、分科会に参加

研修名「岡山県動物愛護センター事業協力」(連携企業等:岡山県動物愛護センター)

期間:平成29年9月15日 対象:動物病院開業者、動物愛護団体、岡山県

内容:動物愛護管理法に基づき街頭キャンペーン、動物愛護フェスティバル

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「獣医師会中国地区学会」(連携企業等:日本獣医師会、中四国連合獣医師会、関連企業)

期間:9月29日

対象:日本獣医師会、中四国連合獣医師会、関連企業

内容:学会運営員、審査員

研修名「初任者研修」(連携企業等:ヘルパーステーション、民間総合病院、企業より看護師)

期間:7・8月

内容:初任者研修資格取得のため、社会福祉等の協力研修

研修名「企業インターン実習」(連携企業等:一般企業、動物病院)

期間:平成30年通年

内容:各学科必須教科、一般企業、動物病院の協力、指導の下技術、知識を習得する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「愛玩動物飼育管理士講習」(連携企業等:日本愛玩動物協会)

期間:通年 対象:動物系学科、学生、教員

内容:動物飼育取扱に関わる基本法令及び技術研修。

研修名「看護医療学術大会での学生発表指導」(連携企業等:動物臨床医学会)

期間:11月18日 対象:動物看護師

内容:動物病院スタッフ発表会で座長、発表課題の審査指導

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

設置学科に関係する業界代表者や有識者、卒業生代表、学術機関、他種の専門学校、高等学校、地域代表者を学校関係者評価委員会のメンバーに委嘱し、学校評価(自己点検評価)の公正性の評価を行い、学校運営・経営の適正化に関する意見を聴取して公正な学校教育に資する。また公教育的視野に立って、聴取した意見を公開する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標(質問内容4)
(2)学校運営	学校運営(質問内容6)
(3)教育活動	教育活動(質問内容10)
(4)学修成果	学修成果(質問内容4)
(5)学生支援	学生支援(質問内容8)
(6)教育環境	教育環境 教育環境(質問内容3)
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集(質問内容4)
(8)財務	財務(質問内容4)
(9)法令等の遵守	法令等の遵守(質問内容3)
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献(質問内容4)
(11)国際交流	なし(ただし、学園教育交流協定先からの見学・研修訪問受入れ)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校経営の重点課題として、次年度の運営・経営計画の指針とする。また本校教育の現状を公表することによって認知・理解を広く求め、入学者の獲得に寄与する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年9月11日現在

名前	所属	任期	種別
洗井 健一	一般社団法人 岡山県建築士会 会長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
國近 寛康	公益財団法人 岡山県動物愛護財団 事務局長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
松本 浩子	公益社団法人 日本愛玩動物協会 岡山県支所 支所長	平成29年9月1日～平成30年3月31日	企業等委員
山本 拓哉	有限会社 マリンシアター 代表	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
木村 智久	岡山理科大学専門学校 同窓会 会長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	卒業生
平井 義一	玉野総合医療専門学校 校長	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	校長
庄 公寿	庄屋電装 株式会社 取締役	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	町内会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

◀ホームページ▶ ◀広報誌等の刊行物 ▶ その他())

URL: https://www.risen.ac.jp/file/pdf/2017_evaluation.pdf

公表時期:学校関係者評価委員会終了後

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者は当該所属の代表者を選定しており、広く所属団体の意見を集約できるものであり、また評価のフィードバックも期待できるものである。学校情報はホームページ、学校案内冊子、刊行物等で広く開示している。また、オープンキャンパスを年10回以上開催し、開かれた学校をPRしている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、目標と教育方針、募集定員
(2)各学科等の教育	各学科の教育内容と目指す職業、取得資格
(3)教職員	各学科の教職員のキャリアと担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	校外実習・演習の紹介、卒業後の就職先(刊行物パンフレット)
(5)様々な教育活動・教育環境	年間学校行事、課外活動、教育施設・設備紹介
(6)学生の生活支援	チューター制(2)に紹介、学生寮(5)に紹介
(7)学生納付金・修学支援	学納金、奨学金、長期履修制度紹介
(8)学校の財務	収支決算報告(学校関係者評価ページ末尾)に紹介
(9)学校評価	学校評価と学校関係者評価、保護者評価
(10)国際連携の状況	学園の国際交流状況
(11)その他	関連学園一覧、アクセス

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

◀ホームページ▶ ◀広報誌等の刊行物 ▶ その他())

URL: https://www.risen.ac.jp/file/pdf/2017_evaluation.pdf

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 動物看護学科 3年制) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンピュータ演習Ⅰ	Windows、インターネットおよびオフィスソフト(Word, Excel, PowerPoint)の実用的な利用方法を習得し、ビジネスの現場で役立つ情報リテラシーを習得する。	1後	30	2	○			○	○			
○			コンピュータ演習Ⅱ	ペットショップのホームページに必要なコンテンツを考えながら、ホームページ作成ソフトを利用してホームページを制作する方法を習得する。	2前	30	2	○			○	○			
○			キャリアマナーⅠ	『あなたと一緒に働きたい』就職試験までにそうってもらえるように、しっかりとビジネスマナー、サービス接遇の基本を学ぶ。気持ちの持ち方ひとつで、表情や行動が変わり、周囲に与える印象も向上する。人に喜んでもらえる応対ができるように、自分を見つめ、知識と教養を身につけていく。(サービス接遇準1級取得を目指す)	1前	30	2	○			○		○		
○			キャリアマナーⅡ		1後	30	2	○			○		○		
○			RS特別講義	「建築」「動物」の分野を超えた幅広い学外有識者を招聘し、様々な知識教養を身につけ、幅広い視野を養うことを目的とする。	2後	30	2	○			○		○		
○			動物人間関係学	人と動物の関係を歴史から動物愛護・動物福祉について考え、動物介在活動および教育について学ぶ。またペトロスのサポートについても学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
○			動物行動学Ⅰ	犬および猫の身体的、感覚的能力の基本的な事柄を学び、それぞれの行動特性等を理解する。	1前	30	2	○			○		○		
○			動物行動学Ⅱ	飼い主が直面する問題行動のケーススタディを現実に即して理解し、治療と予防方法を学習する。	2後	30	2	○			○		○		
○			動物行動学Ⅲ	行動学Ⅰ・Ⅱで習得した犬の基本的な行動様式を基礎に、問題行動や対処方法を学習する。	3後	30	2	○			○		○		
○			動物飼養管理学Ⅰ	1年次の動物飼養管理学に関わる講義であり、哺乳類、鳥類、爬虫類等の適正飼養、ペットビジネス、動物の愛護に関わる知識及び関係法令を習得する。日本愛玩動物飼養管理士(2級)資格を取得する。	1前後	60	4	○			○		○	○	

○		動物飼養管理 学Ⅱ	哺乳類、鳥類、爬虫類などを含む動物の適正飼養及び動物愛護の普及に関する知識、動物関係法令の習得を目標とする。日本愛玩動物飼養管理士（1級）資格を取得する。	2 前後	60	4	○			○	○		
○		環境・産業動 物概論	近年における野生動物や産業動物の実態について学習し、動物看護師の使命について理解するとともに、職域の拡大を期す。	3 前後	60	4	○			○	○		
○		魚類・魚病学 概論	水産動物、観賞魚等それぞれの生態と実際、及び疾病について理解し、動物看護師の職域拡大を期す。	3 前	30	2	○			○		○	
○		動物栄養学	産業動物とコンパニオンアニマルではその飼養目的が異なる。動物はライフスタイル、ライフステージに応じて必要なエネルギー、必須栄養素を摂取しなければならない。日常の飼養管理の基礎を理解する。	1 前	30	2	○			○	○		
○		動物病理学Ⅰ	獣医学に係る者は必ず病気の基本を学習し、病気の成り立ちを理解しなければならない。病気の基本を系統的に理解させる。	1 後	30	2	○			○	○		
○		動物病理学Ⅱ	病理学Ⅰの総論に次いで、各論として体躯及び各臓器の疾病を病理学的・具体的に理解する。病原体による疾病発生メカニズムと衛生管理を学ぶ。	2 前後	60	4	○			○	○		
○		動物形態機能 学Ⅰ	解剖学、生理学は獣医学の基礎でもあり、動物に接する仕事や動物を飼育管理する上でも重要な科目である。この科目では犬猫を中心に、動物の複雑な体の構造と機能について系統的に理解させる。	1 前後	60	4	○			○	○		
○		動物形態機能 学Ⅱ	各種動物の体の構造と各器官の働きを役割を中心に理解して行く。	2 前後	60	4	○			○	○		
○		解剖・生理学	動物に接するときに必要な各臓器の形態構造と生理機能を理解する。	1 前	30	2	○			○	○		
○		公衆衛生・関 係法令	獣医公衆衛生は動物の健康を介して人間の健康に寄与する教科である。近年の人・動物の共通感染症や生存環境を疫学的及び系統的に理解させる。	2 前後	60	4	○			○	○		
○		動物感染症学 Ⅰ	動物の病気（主に犬猫）の中で感染症の占める位置は大きい。本講ではその原因となる微生物について学び、感染症の発生と予防についての知識を深める。	1 前	30	2	○			○	○		
○		動物感染症学 Ⅱ	寄生虫学は獣医学の基礎となるもので、人畜共通感染症も多く、動物看護師にとって必須である。鑑別、ライフサイクル、治療について学習する。	1 後	30	2	○			○	○		
○		薬理・薬剤学 Ⅰ	薬理・薬剤学は、動物を治療していく上で正しく理解する必要がある。直接獣医師の指示のもと、調剤、投薬のサポートをする動物看護師を育成する。薬理・薬剤学を臨床に連結させる。	1 後	30	2	○			○	○		

○		薬理・薬剤学Ⅱ	薬理・薬剤学Ⅰの基礎知識習得ののうえに、臨床における薬物使用の実際について学習し、薬理・薬剤学への理解を深める。	3 後	30	2	○			○		○		
○		産科・繁殖学	産科・繁殖学は生命誕生を知る重要な学問であり、色々な動物の繁殖生理を学ぶことによって、希少動物の保護の問題や愛玩動物の飼育管理のあり方など、より幅広く理解させる。	1 前	30	2	○			○		○		
○		動物疾病看護学Ⅰ	動物の病気はその種類、症状だけを見ても実に多種多様である。「どんな病気があるのか?」「何が原因でどこにどんな症状が現われるのか?」「治療法は?」といった疑問を解消するべく、犬猫を中心に病気を器官系統別に分類して理解を深める。	1 前後	60	4	○			○		○		
○		動物疾病看護学Ⅱ	動物の病気Ⅰに引き継いだ系統別の病気や犬種遺伝性の病気、さらにウサギやげっ歯類、鳥類といったその他の小動物の病気についても解説する。	2 後	30	2	○			○			○	○
○		動物疾病看護学Ⅲ	動物の臨床に当たり内科疾患の診断、治療に結びつく様々な検査方法、その意義や結果に対する知識を身につける。	2 前後	60	4	○			○		○		
○		動物看護学Ⅰ	動物看護をする専門技術者として、動物医療を支えるために必要な知識と技術について学ぶ。	1 前後	60	4	○			○			○	○
○		動物看護学Ⅱ	小動物診療現場で動物看護師として働く時、動物の生命・健康について、科学的・合理的な発想ができるように看護能力を養う。	1 前後	60	4	○			○		○		
○		臨床検査学	動物内科学で学習している様々な検査について、必要な実習を追加して知識を深める。	1 前後	60	4	○			○			○	
○		入院・幼齢・老齢動物管理	動物病院におけるV Tの役割を理解し、受付業務や診療室・手術室での業務を具体的に学ぶ。多様化するV Tの業務に必要な知識と基本マナーを身につける。	2 前後	60	4	○			○			○	○
○		カウンセリング技法Ⅰ	1) 相談者として必要な基本的態度を体験的に学ぶ。 2) 傾聴による面接技法を学ぶ。 3) 相談者としての自分のありようを自覚する。	1 後	30	2	○			○			○	
○		社会福祉概論	日本の福祉社会の実際を把握するため社会保障、福祉施設、思考法などを学び、動物看護師としての対応方法、ありようについて理解する。	3 前	30	2	○			○			○	
○		動物介在活動(AAA)Ⅰ	動物の肉体的・感覚的能力の基本を理解し、その行動過程から、動物の人への能力活用を理解する。	2 後	30	2	○			○			○	○

○		動物介在活動Ⅱ	広く動物が人と関わる活動全般について、リサーチ、考察を通して視野を広げる。	3後	30	2	○				○				○	○
○		ペット行政関係学（ケーススタディ）	ペットショップ、動物病院等のペットに関する業界の実際と、法律関係および行政関係を学習する。	3後	30	2	○				○				○	○
○		リハビリテーション概論Ⅰ	人のリハビリテーションの実際と、動物介在療法応用の可能性について学習する。	3前	30	2	○				○				○	
○		リハビリテーション概論Ⅱ	人のリハビリテーションの実際と物理療法、運動療法への動物介在療法応用の可能性について学習する。	3後	30	2	○				○				○	
○		動物管理学	家畜を中心とした産業動物、野生動物、家庭動物の位置づけと管理の有り様を実学に即して学習し、基本的な応用技術を習得する。	3前後	30	2	○				○				○	
○		動物管理学実習	産業動物、野生動物、家庭動物の位置づけと管理の在りようを実学に即して学習し、基本的な応用技術を習得する。	3前	30	1					○	○			○	
○		動物飼育実習Ⅰ	飼い主のために適切なアドバイスのできるように、犬について、犬の扱いについて情報知識と近代的な犬の行動学、心理学に基づいたトレーニング技術を学ぶ。	1前後	60	2					○	○			○	
○		動物飼育実習Ⅱ	学校飼育動物の給餌や運動、ケージの掃除・消毒等の世話を通して、動物に慣れ親しみながら飼育・健康管理のポイントや動物の扱い方について学ぶ。	1前後	30	1					○	○			○	
○		グルーミング実習Ⅰ	グルーミングの基礎技術を実技を通して理解し、動物の扱い方を学習する。	2後	60	2					○	○			○	
○		グルーミング実習Ⅱ	グルーミングの基礎技術から応用技術の実際を理解し、グルーミング技術を深める。	3前	60	2					○	○			○	
	○	動物園実習	学内飼育動物の給餌や運動、ケージの掃除・消毒等の世話を通して、動物に慣れ親しみながら飼育・健康管理のポイントや動物の扱い方について学ぶ。校外（動物園など）での実習も組み入れる。	1前後	(60)	(2)					○		○	○	○	○
○		動物看護学実習Ⅰ	前期は動物の看護を実践して学び、動物看護学で学んだ知識の理解を深める。後期は動物看護学で学んだ知識を実践して理解を深める。	1前後	60	2					○	○			○	○
○		動物看護学実習Ⅱ	動物看護学Ⅰ、動物看護学実習Ⅰで学んだ看護技術を、動物医療の実際に即してより理解を深める。	2前後	60	2					○	○			○	
○		動物看護学実習Ⅲ	動物看護の衛星技術をグルーミング道具の使い方、動物の扱い方から学習する。	2前	120	4					○	○			○	

○		臨床検査学実習Ⅰ	臨床の現場で使用される検査器具・機器の取扱に習熟し、検査データの意義を理解する。	1 前後	60	2				○	○		○					
○		臨床検査学実習Ⅱ	動物感染症の原因となる細菌、ウイルス、原虫の動態を理解し、検査データの意義を学習する。	1 前後	60	2				○	○		○					
○		臨床検査学実習Ⅲ	感染症の原因となるウイルス、細菌、寄生虫を客観的、総合的に理解し、動物の感染症、食中毒、環境衛生及び公衆衛生関連技術を習得し、病院、企業、団体等の就職に資する。実習を通して技術を把握していく。	2 後	30	1				○	○		○					
○		臨床検査学実習Ⅳ		3 前	30	1				○	○			○				
○		臨床検査学実習Ⅴ	動物の疾病を基礎獣医学をベースに微生物学、免疫学、生化学的に診断する技術を実際に即して学ぶ。	3 前後	60	2				○	○						○	
○		臨床病理学実習Ⅰ	動物医療における臨床検査の意義を疾病と関連づけて理解するために、身体を構成する各臓器の微細構造を学習する。また、各種動物の血液、糞便等の実習検査を行う。	2 前後	60	2				○	○						○	
○		臨床病理学実習Ⅱ	疾病の病理標本や各種臨床検査資料を基に、動物の疾病について理解を深める。各種動物の実習検査をし、疾病を理解する。	3 前後	60	2				○	○						○	
○		臨床病理学実習Ⅲ	疾病の細胞診や組織病理学的診断技術等の高度医療技術を学習する。	3 前後	60	2				○	○						○	
○		動物外科総合実習	動物病院の現場では、獣医学的知識に基づく確実な技術を身に着けた、動物看護師が求められている、基本的理論を身に着け、実践に役立つ技術とトレーニングを重ねた、動物看護師の育成を目的とする。	2 前後	120	4				○	○						○	○
○		インターンシップ・多目的実習Ⅰ	動物病院や、動物関連施設の実情と仕組みを学び、それぞれの必要とされている技術・思考法を習得し、幅広い視野を養う。	1 後	60	2					○						○	○
○		インターンシップ・多目的実習Ⅱ		2 後	60	2						○						○
	○	インターンシップ・多目的実習Ⅲ	3カ年に渡り学習した様々な知識の社会への適用について技術、思考法を理解する。	3 後	(30)	(1)					○	○					○	○

○		特別講義	動物に係る教科をより深く理解するため、専門教科、動物関連業界、自然環境、関連法規等を課題として取り上げ学習する。動物看護師が習得すべき標準的看護知識を習得する。動物病院看護業務、生命に関する本質的問題、伴侶動物や産業動物等総括的に学習する。動物看護師が習得すべき標準的看護知識を習得する。動物病院看護業務、生命に関する本質的問題、伴侶動物や産業動物等総括的に学習する。	2 後	30	2		○	○		○		
○		獣医看護演習 I	動物看護師が習得すべき標準的看護知識を習得する。動物病院看護業務、生命に関する本質的問題、伴侶動物や産業動物等総括的に学習する。動物看護師統一認定試験を受験する。	2 後	30	2		○	○		○		
○	学校独自の奨学	獣医看護演習 II	CT、MRI等、先端医療器材の使用方法和、各種臨床検査等の技術を学び、専門職看護技術職を目指すため、パラメディカル技術を集中的に学習する。獣医系大学や、先端医療技術動物病院等で集中的に技術取得に努める。	3 前後	60	4		○			○	○	○
○		動物内科学総合演習	動物内科学の実際と看護学の応用について実例をもとに演習する。	3 前後	60	4		○	○		○		
○		動物栄養学演習	動物のライフステージにおける栄養の管理について実際に側で演習する。	3 前	30	2		○	○		○		
○		卒業研究	動物看護師資格認定試験を受験する。動物関連学科の動物看護学、基礎獣医学、動物愛護関連教科をより深く理解し、動物関連業務を主体的に取り組むためにグループ研究をし、成果を発表するとともに論文にまとめる。	2 前後	240	8		○	○	○		○	○
○		多目的演習 A・B	3カ年の学習成果をまとめる能力を養う。その結果をグループ発表するとともに、論文にまとめる。	3 前後	60	4		○	○		○		
○		エキゾチックアニマル演習	犬、猫以外のエキゾチックアニマルを過程で飼育する機会は増加しており、その生理、生態について学習し、看護技術のありようを理解する。	3 後	30	2		○	○		○		
○	○	初任者研修資格演習	動物看護師の職域拡大に資する為、人の動物介在医療が試行されている。それらを実践している社会福祉施設では、初任者研修資格等の公的資格が必要となる為、対応していく。	3 前後	(130)	(8)		○	○		○	○	○
合計					65	科目	3270単位時間(172単位)		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各科目において学習評価と出席時数による認定によって取得された総単位数が8 1単位以上であること(全科目必修)。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。